



令和6年度 平山まちづくり勉強会 まとめ



おかのうえプロジェクトとは



おかのうえプロジェクトとは、令和10年度末に閉鎖予定の
平山台健康・市民支援センターの跡地活用について、
令和6年度から始まった地域住民と日野市が協働しながら検
討し、行動するプロジェクトです。

勉強会の趣旨

おかのうえプロジェクト

第1回 平山まちづくり勉強会
～官民連携について学ぶ～

6月1日 (土) 10:00～12:00

平山台健康・市民支援センターの跡地活用について、近隣住民の皆さまにご意見をいただくことを目的に、令和5年度に「平山台健康・市民支援センター」を考えた意見交換会」を計4回開催しました。意見交換会ではいただいた意見を踏まえ、令和6年度は跡地活用に関連する様々なテーマの勉強会を開催します。第1回は官民連携の専門家・江原慎一郎様（株式会社日本総合研究所）を招いて、PPP/PPFについて学びます。

日時：6月1日（土）10:00～12:00
会場：平山台健康・市民支援センター 集会所2-1
定員：30人 ※事前申込制ですが当日参加OK
問合せ：日野市企画経理課 042-514-8047 / kikaku@city.hino.jp

申し込みはこちら



おかのうえプロジェクト

第2回 平山まちづくり勉強会
～住民みなで考え、実行する地域づくりを学ぶ～

8月24日 (土) 10:00～12:00

平山台健康・市民支援センターの跡地活用についての見識を深めるため、第1回勉強会では「官民連携」について学びました。第2回勉強会では「年齢・性別・職業に関わらず、一人ひとりの意見を大切にしながら地域の居場所をつくっていくために一人ひとりができること」をテーマとしたコミュニティササシについて学びます。全国各地で住民参加による跡地活用などを手掛けるstudio-Lから漢平奈保を講師に招いて開催します。初めて参加する方も大歓迎です。

日時：8月24日（土）10:00～12:00
会場：平山台健康・市民支援センター 集会所2-1
定員：40人 ※事前申込制ですが当日参加OK
問合せ：日野市企画経理課 042-514-8047 / kikaku@city.hino.jp

申し込みはこちら



おかのうえプロジェクト

第3回 平山まちづくり勉強会
～焚火を囲んで、遊びが支える防災の知恵を学ぶ～

10月6日 (日) 14:00～18:00

平山台健康・市民支援センターの跡地活用についての見識を深めるため、第3回勉強会では焚火を囲みながら、「遊びが支える防災」をテーマに、東日本大震災を経験された震災伝承者で大学ボランティアセンターコーディネーターの栗原弘氏、アウトドアの達人で日野社会教育センターの寺田達也氏、市防災安全課職員による座談会のほか、焚火時を想定した特設テント等設置スペース（別名：ダイナミックエリア）や各種アウトドア体験ができるイベントです。ぜひご家族でお気軽にご参加ください。

催しの内容

- 焚火ブース（焚火台特設可）
- 防災炊出し（予定）
- 各種アウトドア体験
- 特設テント等設置スペース（テント等を所持の方はご持参）
- キッチンカー（予定）など

注意事項

- 雨天時は座談会や各種体験のみ
- ゴミは各自必ず持ち帰り
- 焚火は指定エリアのみ可
- 親子等は持参推奨（貸出有）

日時：10月6日（日）14:00～18:00
会場：平山台健康・市民支援センター 校庭
※雨天時は集会所2-1
問合せ：日野市企画経理課 042-514-8047 / kikaku@city.hino.jp

おかのうえプロジェクト

第4回 平山まちづくり勉強会

2025年 2月 8日 (土) 10:00～12:00

会場：平山台健康・市民支援センター 集会所2-1

Program

平山台健康・市民支援センターの跡地活用についての見識を深めるため、「官民連携」、「コミュニティデザイン」、「防災」をテーマにそれぞれ勉強会を計3回開催しました。第4回勉強会は、各テーマを振り返りながら、平山台健康・市民支援センターの跡地活用に関すること、一人ひとりの意見を尊重しながら対話を通じて相互理解し、次年度以降の行動につなげる場とします。

講師には全国各地で住民参加による跡地活用などを手掛けるstudio-Lから漢平奈保をお迎えしますので多くの方のご参加をお待ちしています。なお、ワークの最後には今年度の振り返りをしますので、初めて参加される方も大歓迎です。

申し込みはこちら



日時：2月8日（土）10:00～12:00
会場：平山台健康・市民支援センター 集会所2-1
定員：40人
問合せ：日野市企画経理課 042-514-8047 / kikaku@city.hino.jp

おかのうえプロジェクトの令和6年度取り組みとして、施設の跡地活用に関連したテーマ（**官民連携、コミュニティデザイン、防災**）の勉強会を開催しました。

第4回勉強会は各テーマを振り返りながら、対話を通じて次年度以降の行動につなげる場としました。

これまでの勉強会のふりかえり

第1回 「官民連携について学ぶ」



官民連携の専門家である日本総合研究所の江頭さんより、PPP/PFI事業の基本や地域で推進するためのポイントについて全国の事例を踏まえながら紹介いただきました。

第1回 「官民連携について学ぶ」

キーワード

- 自治体も費用負担がある
- 民間との対話の重要性
- 地域の企業の参入が容易ではない
- 民間業者のノウハウの活用余地を確保
- 競争環境を構築する

第1回 「官民連携について学ぶ」

事例紹介後の質疑から

Q.民間事業者が参入した際に、住民の自由度が損なわれる可能性があるが、地域住民の意見を通すことはできないのか。

民間事業者が参入するタイミングで、参入の条件として仕様書等に「住民の意見を聞く」という要素を入れることはできる。ただし、民間業者のニーズと住民の求めるニーズがマッチングしない場合については、民間の参入の足かせとなるリスクがあるためバランスが大事。民間の参入意欲と住民ニーズの折衝は一つのポイントになる。

第2回 「住民みんなで考え、実行する地域づくりを学ぶ」



全国でコミュニティデザイン（地域の人が自ら課題を解決する支援）に取り組むstudio-Lの洪さんより、地域の未来を住民が学びながら検討している取り組みや跡地活用等の事例の紹介がありました。

第2回 「住民みんなで考え、実行する地域づくりを学ぶ」

事例紹介後の質疑から

Q.勉強会やワークショップにいかに来てもらえるかが不安。
乗り越えるにはどうしたらいいか。

最初の目標を小さく持つというのはある。1人3人説。5人が3人連れてきたら15人。という形で、100人来てもらうのは難しい。ヒアリングしてお誘いして広げていく。重要なのが、1回目2回目に参加してないと来づらくなる。それをどれだけ減らせるか。地域の特性や来る方へのアプローチ方法など、来づらくなることを減らす仕掛けを作っていく定期開催すると予定が立てやすく、1度来られなくても次の回に行きやすさがある。時間が明確で明瞭さをもつことも若い世代には効果がある。

第2回 「住民みんなで考え、実行する地域づくりを学ぶ」

事後アンケートから

- 実例の話を多く聞けたので、跡地活用への期待が膨らむ内容だった。
- 屋外公共空間の可能性を知るきっかけとなった。ハコモノから考えるのではなく、住民の「些細なやりたいこと」から跡地に求めることの大切さを学びました。
- 地域の中の1割が関わるだけでも地域は変わるという言葉に感銘を受けた。
- 駅前で展示物を置いてシールを貼るなど若者の意見の集め方はぜひ取り組んでみたいと思った。

第3回 「焚火を囲んで、遊びが支える防災の知恵を学ぶ」



「遊びが支える防災」をテーマに東日本大震災を経験された震災伝承者の齋藤さん、日野社会教育センターの寺田さん、市防災安全課職員による座談会を開催し、被災体験を踏まえた被災時の心構えや避難所の状況などお話しいただきました。

第3回 「焚火を囲んで、遊びが支える防災の知恵を学ぶ」



催しの内容

座談会のほか、焚火、防災炊出し、平山台デイキャンプエリア、みんなのパレット（ストリートピアノ）など

第3回 「焚火を囲んで、遊びが支える防災の知恵を学ぶ」



第3回 「焚火を囲んで、遊びが支える防災の知恵を学ぶ」



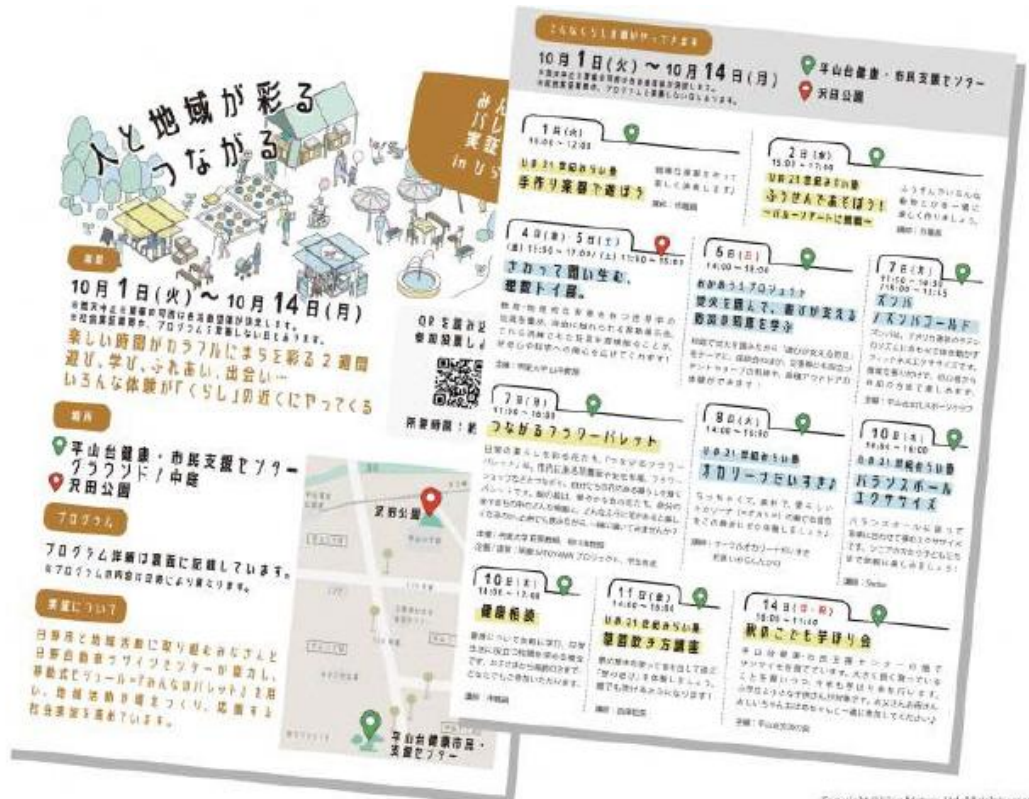
第3回 「焚火を囲んで、遊びが支える防災の知恵を学ぶ」

事後アンケートから

- ユーザー側の自由度の高い、あえて未完成な場所にとどめておくのも良いかも。住民と一緒に平山台を育てていく余白を残すなど。
- 避難場所、コミュニティの場として当該地は絶対に必要な場所である。施設規模を縮小しても存続すべき。
- 雨で校庭がぐちゃぐちゃだったのでテントを張らなかったが、キャンプ場にすれば有事の際も避難できて良い。
- 避難したあとの心のゆとりのためには、コミュニティや趣味などの多少の遊び心が必要だと思った。

みんなのシレット

▶日野自動車デザインセンターと地域団体との協働で、移動式モジュール「みんなのパレット」を活用し、令和6年10月1日～14日の期間、平山台健康・市民支援センターや沢田公園において地域活動の場づくりの実証実験を行いました。



みんなのパレット実証実験



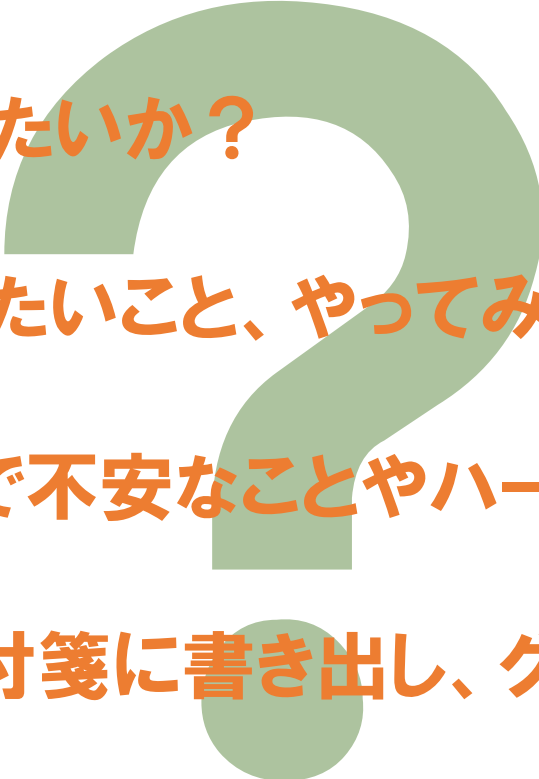
第4回 「ふりかえりとこれから」



studio-Lの洪さんをお招きし、3回の勉強会の振り返りを行い、勉強会で学んだことの振り返りや共有、これからの進め方ややりたいこと、課題についてグループトークを中心に行いました。

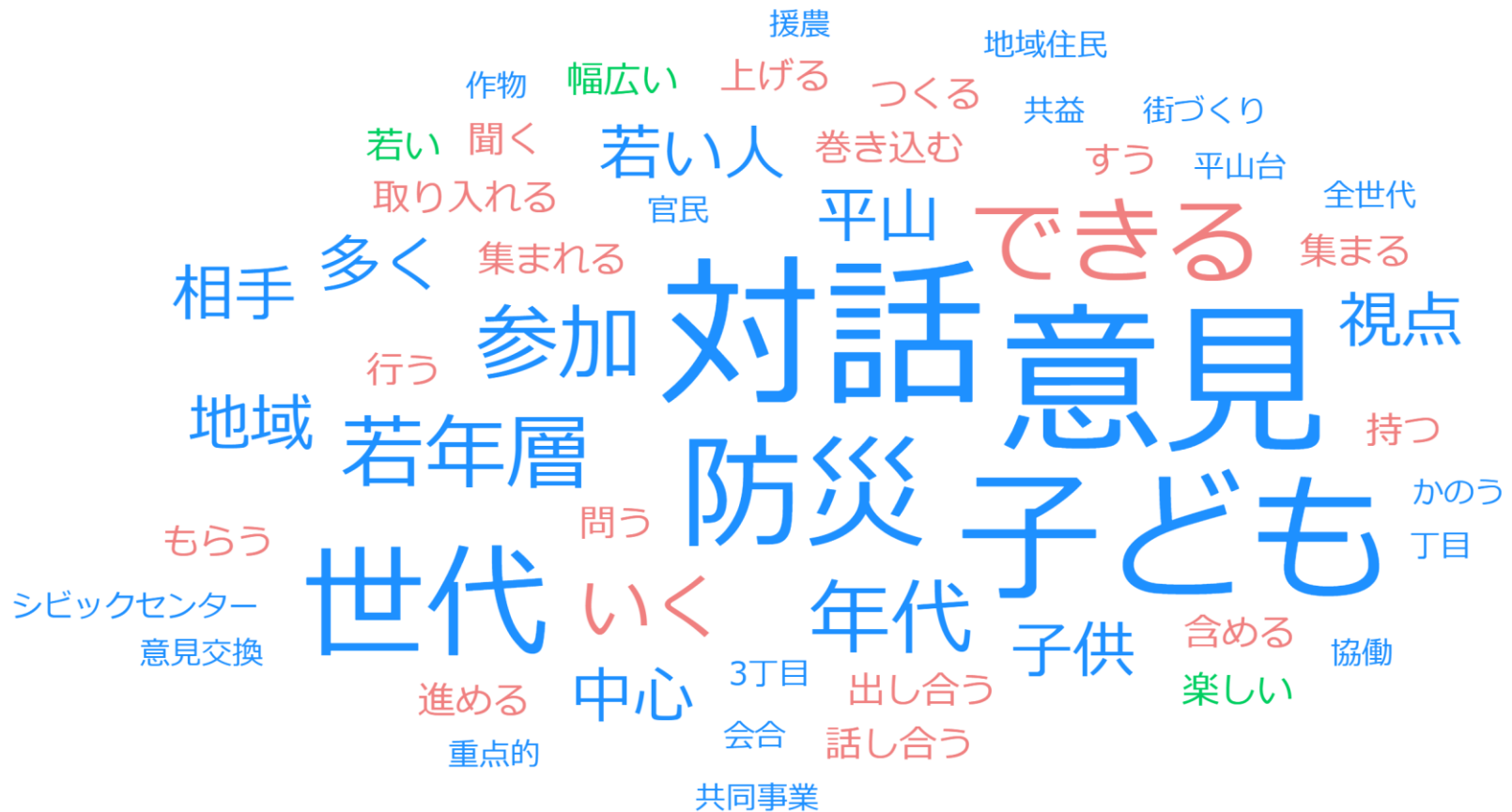
グループトーク テーマ

これから、平山のまちづくりを考えるにあたり、

- 
- ①どのように進めたいか？
 - ②もっと学んでみたいこと、やってみたいことはあるか？
 - ③今後の進め方で不安なことやハードルはあるか？

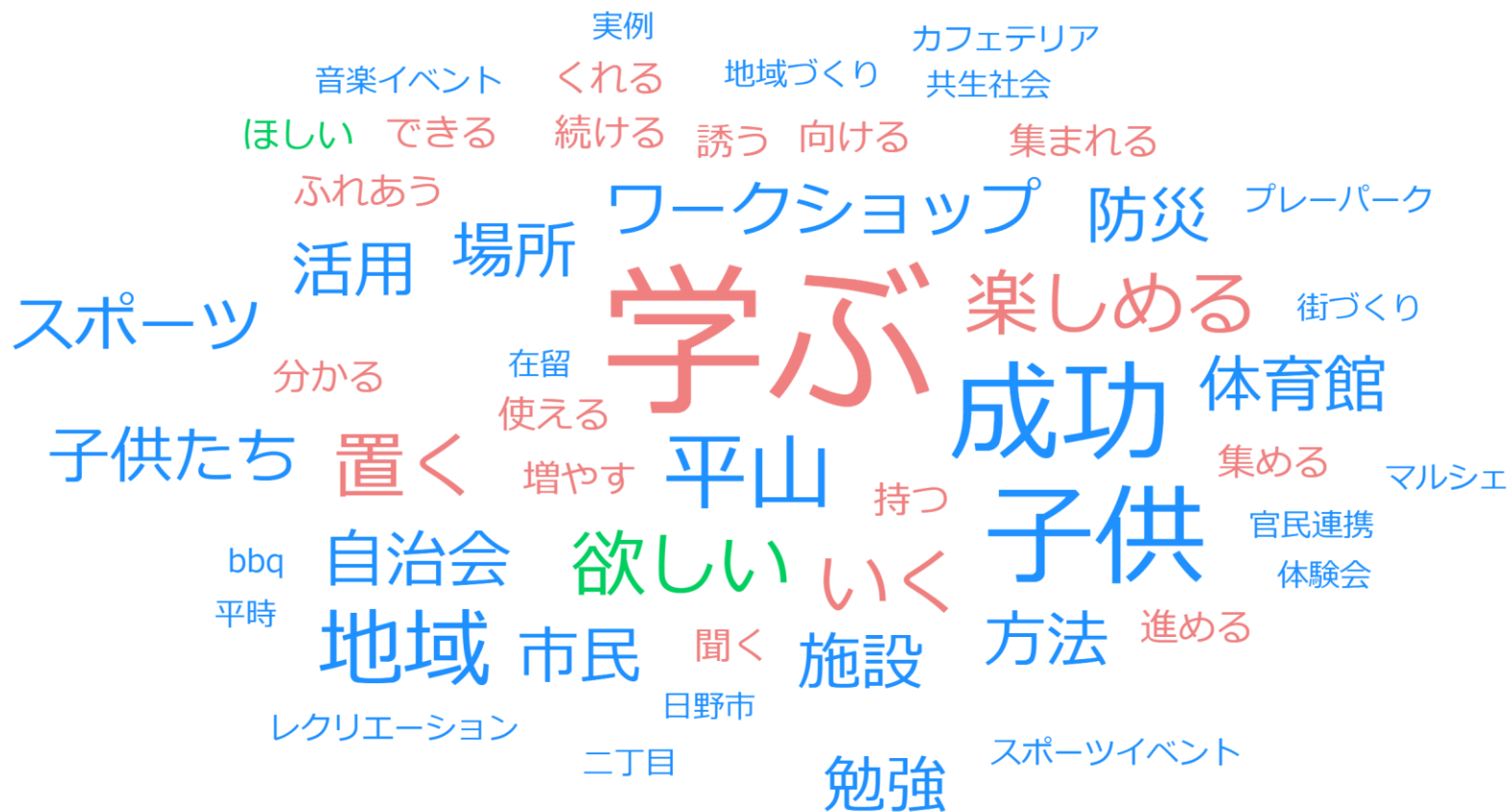
の3つのテーマを付箋に書き出し、グループトークを行いました。

グループトーク「これからどのように進めたいか」集計結果



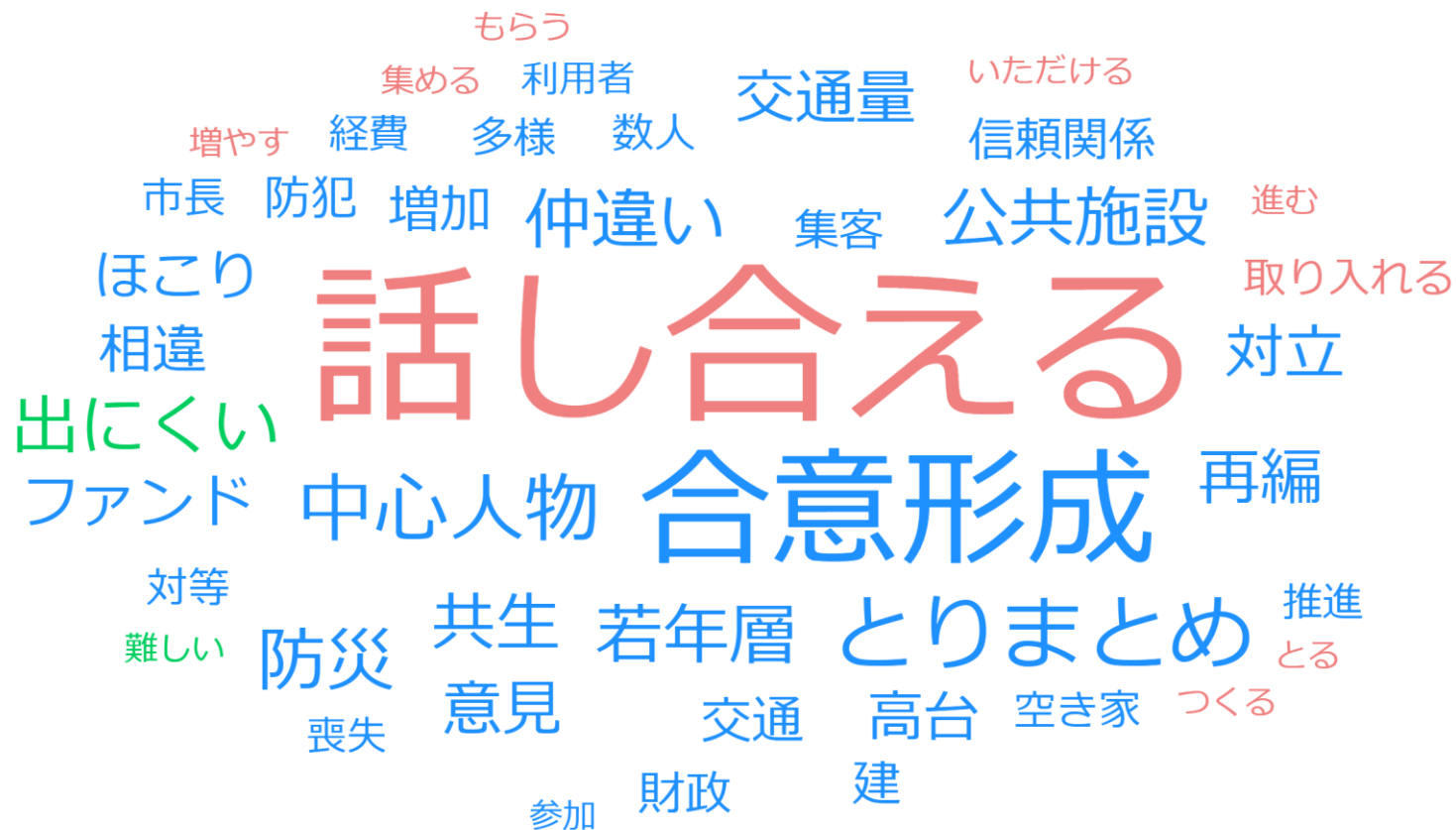
- ・幅広い世代の地域住民を巻き込みたい
- ・子どもの意見を大切に進めたい
- ・防災を中心としたい
- ・長期的視点で進めたい(子どものため)
- ・対話を大切に進めたい
- ・相手の意見を尊重しながら進めたい など

グループトーク「学びたいこと、やりたいこと」集計結果



- ・跡地活用における他の成功例
- ・子どもから大人まで参加できるワークショップ
- ・防災体験(宿泊型)
- ・BBQやプレーパーク、スポーツイベントなどのレクリエーション など

グループトーク「不安なことやハードル」集計結果



- ・若者の意見が出にくい ・多様な意見の合意形成が難しい(仲違いしないか不安)
- ・多くの住民の参加(意見)を得ることが難しい ・防災や交通量の増加などが不安 など

令和7年度の動き

第1回勉強会で学んだ官民連携について、跡地を効果的に活用し、市民サービスの向上や安定的な財源確保の観点から、跡地に関する市場性等を把握する必要性



跡地活用サウンディング調査の実施

第4回勉強会の跡地活用を考えるグループトークで出た「若者の意見が出にくい」、「多くの住民の参加を得ることが難しい」、「多様な意見の合意形成の調整が難しい」といった課題を解消するため、多様な世代から多様な意見を集約するとともに、地域住民等が求める機能について合意形成し、方針を検討する必要がある



意見集約と合意形成のためワークショップ等を開催

	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	6月1日（土）	8月24日（土）	10月6日（土）	2月8日（土）
会場	集会室2-1	集会室2-1	校庭	集会室2-1
内容	官民連携	コミュニティデザイン	防災	振り返り
講師	（株）日本総合研究所 江頭 慎一郎氏	（株）studio-L 洪 華奈氏、山下 奈緒子氏	東日本大震災被災者・震災伝承者 齋藤元気氏 日野社会教育センター次長 寺田達也氏 市防災安全課職員	（株）studio-L 洪 華奈氏、山下 奈緒子氏
参加者数	34人	19人	97人	29人
チラシ				